

# 園務支援システム導入と運用方法の研究 ～アンケート分析～

森 大樹\*・坂本 渉\*

## Research on Introduction and Operation Method of Nursery School Affairs Support System —Questionnaire Analysis—

Taiju Mori, Wataru Sakamoto

---

【キーワード】 コンピュータ, ICT, 園務支援システム  
Computer, ICT, Nursery School Affairs Support System

### 1. はじめに

Society 5.0<sup>1)</sup> 実現へ向けて、社会の様々な場面で ICT を活用することにより問題を解決することが提起されている。保育の現場でも魅力ある職業として生涯働けるようにするために、ICT 園務支援システムを活用することで、事務負担軽減や保育の再構築が期待されている<sup>2)</sup>。

しかし、現状としては保育現場では積極的に ICT を保育に活用し始めている園もあるが、多くの園では ICT 導入に躊躇している状況がある。

そこで、保育現場への ICT 導入の現状を調査し、問題点を整理し、改善のための提言ができるように、保育分野の業務改善のための「園務支援システム導入と運用方法の研究」を本研究の目的とする。

認定こども園等の保育現場において、ICT を導入することにより、主に①事務負担軽減、②子どもや保育計画・日誌の情報共有、③保護者との連絡の3点が改善されることが期待されている。しかし、そのような ICT 導入の範囲は園により大きな差があり、現場の保育者にとっては、ICT 導入がかえって負担になるような意識もあり、ICT 導入は部分的にしか進んでいない。また保育現場では、子どもの実体験を大事にすることもあり、デジタル機器である ICT を導入することに抵抗感も少なからずある。

本学は保育者養成校となっており、「情報機器の操作」科目は幼稚園教諭免許の必修科目であり、保育現場での ICT 活用を目標に教育を行っている。保育現場の現状ではアナログで十分というような風潮もあるが、卒業後に勤務する保育現場で ICT 活用がより進展すれば、保育者養成校での ICT 教育で学ぶ内容が明確となり、保育現場と連動するカリキュラム開発もしやすくなることが期待される。

このような状況の中で、保育現場でどのようにすれば ICT を導入し、活用できるのかが十分研究さ

---

所属および連絡先  
\* 大阪千代田短期大学

れていない状況である。保育ニーズの増加や保育士不足と言われる中で、保育の質を高めていくためには、どのように ICT を活用すれば改善される可能性があるのかが本研究の課題である。

・ ICT 園務支援システムについて

- ①保育現場ではどのような機能が必要であり、その目標は何か。
- ②導入する場合の不安要素となるものは何か。
- ③導入や改善をするには、どのような研修や勤務体制が必要となるのか。
- ④保育の質向上のためには何が必要となるのか。

保育現場の保育者にアンケートを取り、集計することで本研究においてこれら課題を追求したい。

## 2. 先行研究

経済産業省（2018）「保育現場の ICT 化・自治体手続等標準化検討会-報告書」においては、日本の持続的経済成長を達成するために「少子化の克服」や「次世代を担う人材育成」は重要とされ、そのためには「子育て環境の整備」が必要不可欠と言われている。しかし、保育現場では業務負担が大きく、保育に専念できるようにするための業務負担軽減は喫緊の課題とされている。保育業務の負担軽減のために支援（ICT 化等）は未だ不十分という認識である。その理由としては、インフラ整備や現場スタッフの IT スキル不足、導入メリットが不明確などの課題があるとされている。そのために、保育全体の業務フローを踏まえた共通化・標準化したシステムを構築し、導入メリットを最大化することが重要とされた。

二宮ら（2020）による「保育現場における園務支援システム導入の抑制要因と促進要因」では、保育現場で業務軽減に有効とされている統合型園務支援システムの導入がなぜ進まないのかという問題を整理し、7つの抑制要因（①帳票類の様式不整合、②個人情報漏洩の恐れ、③端末やサーバーの不備、④メンテナンスやアフターケアの不備、⑤PCリテラシーの低さ、⑥保育に関する専門的知識・技術の未熟さ、⑦学び合いの難しさ）と2つの促進要因（①園内の連携、②他機関との連携）を見出した。この研究では ICT 園務支援システムの導入が進まない理由を見出すことで問題提起はしたが、そこからどのように抜け出して展開していけばよいのかの提案が十分なされていない。

## 3. 研究方法

Society 5.0 でも言われているように、少子化・高齢化社会のなかにおいて、様々な場面で ICT を活用することで問題解決をすることが期待されている。保育現場でも ICT を活用することで、事務作業を軽減し、現場の保育者が保育そのものに集中できるようになると期待されている。しかし現在、保育現場では十分に ICT を導入できているとは言えない状況である。

保育現場での保育の目的を再確認し、そのための ICT 活用の役割を明確にすることで、どのようにすれば保育現場で ICT 導入の意識を高めることができるのか。そのための研修方法や運用体制をどう

あるべきなのか。ICT 導入の結果として、保育の質向上につながる方法、園の教育・保育方針に寄与するための方法はどのようなものかを、本研究では保育現場の保育者のアンケートを通して明らかにしたい。

- ・ ICT 園務支援システムの調査研究
  - ①保育現場ではどのような機能が必要であり、その目標設定。
  - ②導入する場合の障壁となるもの。
  - ③導入や改善のための研修や勤務体制のあり方。
  - ④保育の質向上のために必要となるもの。

これらのことを本研究の目的とする。

本学の「教員免許更新講習」では認定こども園等の現役保育者の受講生が多数であるが、その受講生の協力を得て、「ICT 園務支援システム」についてのアンケート調査を行った。

そのアンケート結果では、園の現場では園児の登降園記録や写真販売は導入されているところもあるが、全面的に ICT 園務支援システムを導入しているところは数少ないことがわかった。また、事務作業の負担軽減にならないのではないかと、情報漏洩が心配などの声も多くあり、ICT 導入により改善されたことよりも不安要素が多いことがわかった。

将来この研究をさらに調査・発展させることで、保育現場の状況や意見、ICT を導入する意義や不安要素を把握し、ICT 導入と運用改善に向けて提言することができると思う。

本学で実施している「教員免許更新講習」では、「ネット社会と子育て支援」というテーマで森大樹・本田和隆の2名で講習を担当している。その講習において、ネット社会の現状報告とこども・保育環境での ICT 機器の影響ということが、研究代表者の主な講習内容である。主な受講生は保育現場の保育者であるが、受講生に園務支援システムの導入についてのアンケートを取ったところ、多くの園では園務支援システムは部分的にしか導入されていない様子であり、むしろ導入に積極的というよりも不安な意見が多く見られた。アンケート結果の傾向としては、①園児の登降園と写真管理以外はあまり導入されていないこと、②業務増加や情報漏洩等への不安が見られた。

このような状況では、厚生労働省も進めている「保育分野の業務負担軽減・業務再構築のためのガイドライン」(2021年3月)<sup>2)</sup>にもあるような保育分野への ICT 活用の取り組みの進展も時間がかかることが予想されるため、保育分野の業務改善のための「園務支援システム導入と運用方法の研究」というテーマの本研究は社会的に有用な意義があると思う。

## 4. 結果と考察

### 4.1 「保育業務の ICT 化（統合型支援システム）についてのアンケート」実施の概要

2021年8月2日～3日の2日間に開講された、本学「教員免許更新講習」の「ネット社会と子育て支援」の講義において、保育業務 ICT 園務支援システム導入についてのアンケート調査を実施した。ア

アンケートの実施の概要は、この表1のとおりである。

なお、アンケート回答に協力していただいた受講生の個人情報や回答内容は、調査研究のための処理・集計の目的外では利用しないこと、分析結果は回答者が特定されないことがないように配慮することを承諾して回答を得た。

表1 「保育業務のICT化（統合型支援システム）についてのアンケート」実施の概要

アンケート実施日	2021年8月2日・3日の2日間
場所	大阪千代田短期大学・教員免許更新講習 「ネット社会と子育て支援」
アンケート回答数・回収率	受講者生69名中 回答者⇒51名 回収率⇒74%
回答者所属	こども園・幼稚園・保育園⇒48名※今回集計 障がい者支援施設⇒1名 小学校教員⇒2名

この講義の2日間の受講生合計は69名、そのうち回答者は51名であり、回収率は74%である。回答者の所属は、「こども園・幼稚園・保育園」が48名であり、「障がい者支援施設」は1名、「小学校教員」は2名であった。今回のアンケート調査は、保育業務のICT化が研究課題となるため、「こども園・幼稚園・保育園」以外の所属のアンケート回答は興味深い内容ではあったが、今回は保育関係者48名を集計対象とした。

#### 4.2 保育業務ICT園務支援システム導入状況

「保育業務のICT化（統合型園務支援システム）を導入していますか？」の問いには、図1のように、「1.大部分導入している」としたのが7%、「2.部分的に導入している」が78%、「全く導入していない園」が15%であった。

登降園の記録を中心に何らかの形でICTを導入している園が78%あり、多くの園がICTを導入し始めている状況であることがわかる。さらに「1.大部分導入している」と合わせるとICTを導入している園は計85%であり、ICTを使い始めている様子がわかる。しかし同時に「3.全く導入していない」園が15%あり、今回の調査結果では園により保育業務でのICT活用の状況には、大きな差があることが見て取れる。

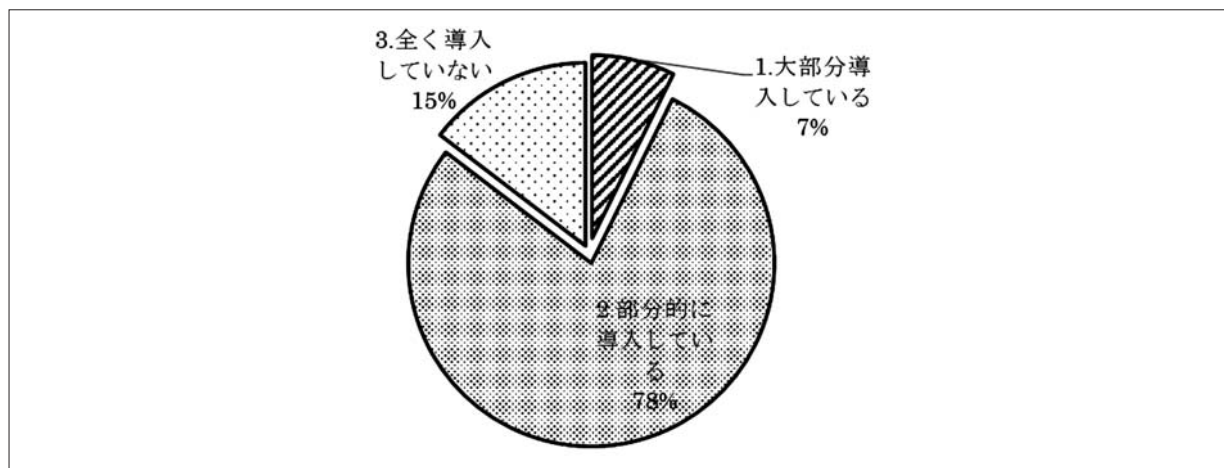


図1 保育業務ICT園務支援システム導入状況

### 4.3 園務支援ソフトで導入している機能（件数）

次に「園務支援ソフトで導入している機能」について質問した。図2のように、回答の最も多い順としては、「1.登降園記録」27件、「7.写真管理販売」27件、「3.お知らせ等の一斉配信」20件、「4.保護者アプリ・欠席連絡」14件、「11.保育士の出退勤管理」14件である。これらは保育業務にICTを導入する場合、比較的簡単に導入しやすく、省力化しやすい事柄でもある。

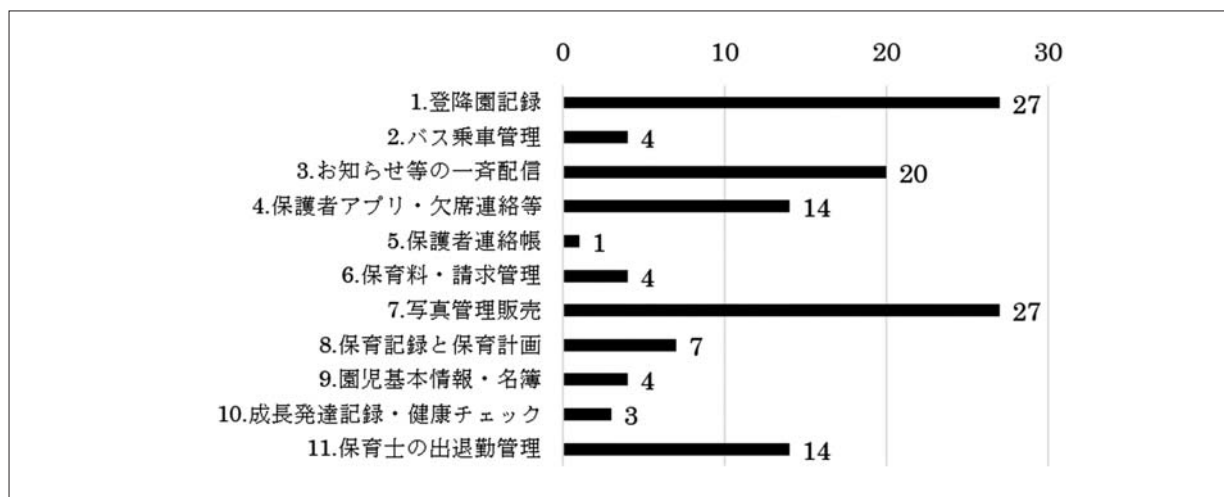


図2 園務支援ソフトで導入している機能（件数）

「1.登降園記録」は、園の出入り口に近いところにタブレット等のICT端末を置き、保護者に登降園時にスクリーンをタッチしてもらう方式やカードをかざす等してもらうことで登降園の時間が記録され保育時間の計算に使用することができる。「3.お知らせ等の一斉配信」も、アンケートの記述では「便利になった」という記述も複数見られる。「7.写真管理販売」も事務作業の要素が強く、ICT化すると事務負担軽減につながりやすく、保護者も自宅でゆっくりと写真を選択することができ、好評のようである。

「4.保護者アプリ・欠席連絡」は保育者や保護者に便利になったという評価が多い一方、アプリでの欠席連絡だけでは、子どもの体調の様子や虐待があったとき場合などに、子どもの家庭での状況を十分把握できないのではないかという不安が保育者から出されている。

この上位5つの共通点としては、主に保育所内の事務所で行っている作業がまずICT化され、事務の負担軽減につながっていることであり、保育室で保育をしている保育者にICT研修をしなくても導入できることもあり、導入しやすい傾向がある。

6番目に多い件数として「8.保育記録と保育計画」7件があり、保育現場の保育者がこれまで長年手書きをしてきた保育記録や保育計画をICT活用してデジタルで記入することになり、PC操作のスキルが必要になってくる項目である。これまで保育の現場ではアナログ志向が強い傾向があり、日常的にPCを使っていない場合は研修が必要になる。アンケートに記入された内容を見ても、保育者のPCスキルが低く、慣れるまで時間がかかると言われている。



#### 4.4 ICT 導入により改善されたところ（件数）

図3「ICT 導入により改善されたところ（件数）」のように、ICT 園務支援システム導入により改善されたと回答した上位3点は、「3.子どもの姿を保護者と共有しやすい」、「1.業務省力化により保育に集中できる」、「6.職員間で園児情報を共有できる」であった。

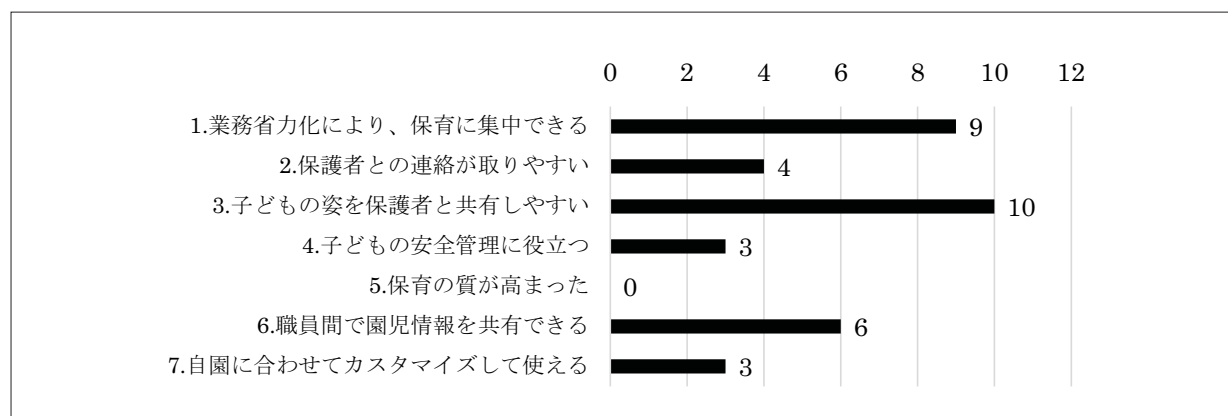


図3 ICT 導入により改善されたところ（件数）

ICT 導入により最も改善されたと回答のあったのは、「3.子どもの姿を保護者と共有しやすい」であるが、お知らせ等の一斉送信では「おたより」等の連絡事項を送信することができ、保育の様子を保護者に伝えやすくなったと考えられる。保護者アプリの連絡帳機能を使えば、個別に写真付きで保育の様子を保護者に伝えることができ、欠席連絡、既読機能等があり保護者と子どもの姿を共有しやすくなったと回答していると考えられる。

改善点として2番目に多かったのが「1.業務省力化により保育に集中できる」ことであり、ICT 支援システム導入の主要な理由のひとつが挙げられている。ICT 導入の当初の目的のひとつとである、業務負担軽減に役立ったとの回答があり、ICT 導入が進めば事務仕事省力化の方向が見え始めている。

3番目の改善点として多い回答は、「6.職員間で園児情報を共有できる」であり、園児基本情報や保育記録等を通して、職員間での園児情報共有に役立っているようである。改善点の4番目には、「保護者と連絡が取りやすい」となっている。一斉送信や保護者連絡アプリの効果であると考えられる。

ICT 導入改善点の上位4つは、園児を中心とする情報共有であり、紙の情報でも共有できるが、ICT を通して情報を扱う方が共有しやすいという ICT の性質が出ていると思われる。ただ、「5.保育の質が高まった」という回答は0であり、今後の課題である。

#### 4.5 ICT 導入のデメリット・不安点（件数）

図4のように、ICT 導入のデメリット・不安点としてもっと多かった回答は、「2.使い方を学ぶ時間がない・研修不足」、「1.ICT に詳しい職員が少ない・少ない」、「8.個人情報の漏洩が心配」であった。

特に上位2つの、「2.使い方を学ぶ時間がない・研修不足」、「1.ICT に詳しい職員が少ない・少ない」という状況は、多くの保育者が訴えるところである。

まず、園務支援システムはほとんどの場合、クラウド・システムになっていることが多く、ICT 導入時にまずインターネット接続環境とセキュリティ、園内 LAN、園内 Wi-Fi 設備を整備しなければな

らない。しかし、そのようなネットワークのインフラ整備についての知識を持ち合わせている職員が園にはほとんどいないので、何が必要な機材かの判断をつけることが困難である。小規模な園に高額なインターネットセキュリティ機器の購入を提案されても園側では必要な機器かそうでないかを判断するのが難しい。

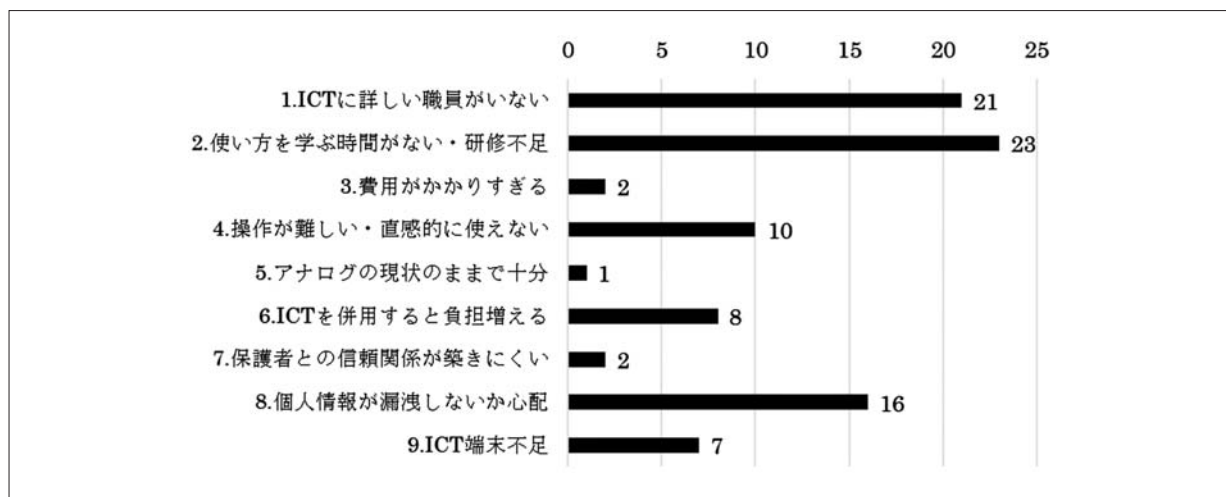


図4 ICT導入のデメリット・不安点（件数）

現状では、園務支援システムを導入の順序としては最初に職員室の事務に導入して事務担軽減を目的にする園が多く、保育者の使用するところまで至っていない園も多い様子である。保育に忙しく、ICT機器の研修がほとんどない、あるいは少ないと感じているアンケート結果となっており、このあたりが今後の課題となっている。

「8.個人情報の漏洩が心配」という不安点としての意見が3番目に多いが、ICT機器の研修や知識が少ないと心配になるのも当然のことであると思われる。

#### 4.6 ICT導入状況と不安要素の傾向

次にICT導入状況と不安要素の数を比較してみた。図5「ICT導入状況と不安要素の傾向」のように、「1. ICTを大部分で導入」している園では、「良いところ・改善された点」は60%と多く、「デメリット・不安点」は40%となっている。ICTの「3. 全く導入無し」の園では、良いところは0%であり、不安が100%である。中間の「2. 部分的に導入している」園では、「良いところ・改善されたところ」が20%、「デメリット・不安点」が80%である。

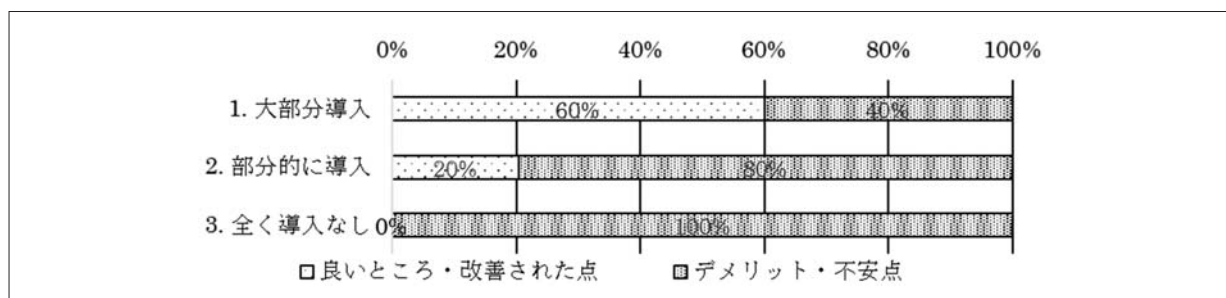


図5 ICT導入状況と不安要素の傾向

以上のことから、ICT を積極的に「1.大部分導入」している園では、不安点よりも改善点多いと認識し、ICT 導入が少ない園ほど不安要素が多い傾向が見て取れる。全く ICT を導入していない場合は、やはりメリットは何も実感できないし、導入が進めば進むほど改善点が見いだされる様子がわかるアンケート結果となっている。

#### 4.7 特徴的な意見（自由記述）

アンケートの最後に、ICT 園務支援システム導入について自由記述で記入していただいた。特徴的な意見を見ていきたい。

- 「自分自身がパソコン使用をほとんどできず、文章を打つだけでも時間がかります。余計に負担。」
- 「年配の保育者が多いと中々ICT化するのが難しい。機械に不具合が起きた時に対応できる人がいない。保育者自身がICTにうとい。」
- 「園だよりや子どもの要録等、パソコンで作成するようになりましたが、慣れるまでたいへんですが、定型文があったりすると考える時間も減り、負担が減ったと思います。」
- 「子どもたちを見るので精一杯。もっとICTを導入すべきである。それで負担が減る分、子どもにもっと何かしてあげられると思う。」
- 「職場では全く導入されないですが、自分の子どもの通っている園では、どんどん導入されています。登降園記録、お知らせ、各クラスの1日の内容一斉送信、保護者連絡、写真販売、成長発達記録など導入されていて、手間が省け時間短縮になり助かっています。写真販売も自宅でゆっくり見られて注文できるのでいいと思います。」

特徴的な意見としては以上の5つが代表的な意見である。記述内容の要点を整理すると、①ICTのスキルがない場合、園務支援システムに慣れるまでに時間がかかる。②保育者自身がこれまでICTをあまり使ってこなかった場合が多く、慣れるまで負担に感じることがある。③おたより等、参考になる定型文があれば入力時間を短縮できる。④ICT導入をして負担軽減になるのであれば積極的にICTを導入してほしいという意見がある。⑤ICTを積極的に導入している園では、保育者の負担軽減だけでなく、保護者にとっても便利に使えている。

保育現場の業務負担軽減をするための方法はICTだけではないが、今回のアンケート調査の結果からは、全体的な傾向としてICTを使いこなすようになれば、業務負担軽減につながると期待していることが読み取れる。ただし、これらの記述は「ネット社会と子育て支援」というテーマの講習で実施されたアンケートであり、比較的ICTについて興味を持っている受講生が多い可能性もあり、さらなる調査が必要である。

## 5. 保育現場への聞き取り調査

アンケート調査と並行して、主にこども園・保育園・乳児院の運営者の個別の詳細意見を把握するために、ICT園務支援システムを導入にあたっての意見をインタビュー形式により聞き取った。（表2）



その主な意見は次の通りであった。

表2 「こども園・乳児院・保育園の運営者へのインタビュー」実施の概要

インタビュー実施日	2021年11月6日
場所	幼保連携型認定こども園I園(兵庫県伊丹市)
インタビュー参加者	3名
インタビュー参加者所属	私立幼保連携型認定こども園 園長 1名 私立乳児院 副施設長 1名 私立保育園 園長 1名

- 良心的とは言えない業者が多い。例えば、一通り使用方法の説明はするが、園側にはICTに詳しい職員がいないため、実際に運用するためのサポートを依頼すると、年間サポート料を請求される。その後、サポートもなく契約を打ち切られた。使えない機器だけ残った。
  - 業者はメリットしか言わない。デメリットがわからない。「園児の登園状況が一目でわかります」と言うが、ICTを入れなくても子どもの顔を見て出欠を把握している。「指導計画作成が早いです」と言うが、記入例を参考にして保育案を作成ばかりしていると、保育者の子どもを見る目が育たない。指導計画を書けない職員になってしまうのではないか。
  - 登降園を自動的に記録するためのICタグは、電池が6年間もつので入園から卒園までもつと言われるが、失くす可能性がある。感知するシステムを導入するのに費用がかかり過ぎる。
  - 連絡ノートの役割がタブレットやスマホのアプリとして使えれば、保育者も保護者も楽になるかもしれない。しかし、デジタルの連絡ノートは、文章が簡単にコピーでき、拡散できるので怖い面もある。紙がいらぬことは便利ではある。
  - ICTを導入するにあたって、想定外のトラブルが発生した場合、対応に時間がかかり、業務が少なくなるとは考えにくい。費用対効果が期待できない。一から建物を建てるなら導入を検討したいが、導入のための工事をするのは大変。
  - 乳児院では児童養護施設と連動する園児のデータベースのシステムは入っているが、入力しきれていない。打ち込み専門の職員でもいれば、データ入力もできると思うが。
  - タブレットを指一本で操作できるようになれば便利に使えるかもしれない。しかし、PCを立ち上げてタイピングするほど時間がない。
  - 研修体制が出来ていない。勤務に余裕がなく、研修会に送り出す余裕もない。
  - ICT機器を導入した場合、職員には説明するが、保護者に使い方を説明する業者がいない。職員が保護者に説明をすることになると業務負担がかえって増加する。
  - 園務支援システムを使うにあたり、説明書を読んで理解して使うには時間がかかり、現場はそのような時間的余裕がない。説明書なしに使えるシステムが少ない。
  - ICTの導入に関しては、園長会で導入した方がよいと言われたからやっている感が強い。
  - 情報共有において、手書きでできない人がICTを使ってもできない。手書きで書かない人は機械が入っても忘れる、やらない。アナログでできないことはICTを入れてもできない。
  - 乳児院ではSIDS予防センサーは、子どもがどちらを向いているかもわかり、記録に残る。
- 以上の意見の傾向は、次の5点に要約できる。

- ①ICT 導入時の専門業者は売ることしか考えていないように見えて信用できない。
- ②ICT 園務システムの導入費や年間サポート料に費用がかかり過ぎ、費用対効果が期待できない。
- ③園務支援システムの操作が簡単ではなく、使用方法を学び、使いこなすまでに時間がかかる。
- ④保護者への使用方法の説明をする担当者がいない。
- ⑤手書きでもできるように研修をしていなければ、ICT を入れても効果はない。

インタビューによって詳細な意見を聞き取るにより把握できたことは、ICT 導入によって業務負担軽減になる見通しが持てないという意見の傾向であり、特に ICT に詳しい職員がいないため、運用に苦労していること、研修体制ができていないことが特徴である。

## 6. 今後の課題

今回のアンケート調査では、ICT 園務支援システムの導入により、業務負担軽減につながることに期待している傾向があることがわかった。また ICT 園務支援システムの導入が進めば、業務負担軽減や園児の情報共有が進み、改善点やメリットも多く実感できることが判明した。同時にまだまだ初期導入に対して不安感が多くあることもわかった。

しかし、インタビュー形式による聞き取りでは、ICT 導入による業務負担軽減の見通しが持てないとの意見の傾向もある。ICT 導入による負担軽減への期待がある一方、他方では実際の運用面で高額な費用がかかることや、サポート体制、研修体制の不備が指摘され、費用対効果が疑われている。

今回のアンケート調査では傾向はつかめたが、もっと広く保育現場の現状を把握するにはさらに調査が必要でもあり、保育現場の現状をさらにアンケート調査したいと思う。また、今回のアンケート調査結果を集計したことで大まかな傾向はつかめたが、なぜそのように考えるのかをさらに「個別の聞き取り調査」をしてさらに詳細に検討することも必要である。ICT 導入の障壁になるもの、不安要素を具体的に把握していく必要がある。

アンケート結果にも現れている通り、ICT スキルアップの研修の実施方法の検討も必要である。多くの保育現場の保育者は、使い方を学ぶ時間がない、研修が少ないと感じている。

保育者養成校としては、「情報機器の操作」科目が幼稚園教諭の必修科目であるが、保育現場に就職するまでに、学生が ICT 園務支援システムの概要や活用を学べるようにしたほうがよい。ICT 園務支援システムの概要や利用方法を保育現場と連携して、Society 5.0 時代にふさわしい、保育者養成校での ICT 教育のカリキュラム開発をすることがもう一つの検討課題である。

### <注>

- 1) 内閣府によれば、Society 5.0 とは「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）と説明されている。[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)（2021.11.30 参照）
- 2) 厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000763301.pdf>（2021.11.30 参照）

<文献>

経済産業省（2018）「保育現場の ICT 化・自治体手続等標準化検討会-報告書」

[https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180330001\\_01.pdf](https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180330001_01.pdf)（2021.11.29 参照）

二宮祐子・富山大士（2020）「保育現場における園務支援システム導入の抑制要因と促進要因」『子ども社会研究』  
26号 5-23